第401回 鳥取海区漁業調整委員会議事録

- 1 日時 令和6年9月20日（金）午後2時00分から午後2時45分まで
- 2 場所 ホテルセントパレス倉吉 2F ウインザー・サウス
- 3 出席者 委員 : 板倉委員、佐々木委員、山根委員、灘本委員、朝日田委員、井本委員
近廻委員、永田委員（寺田委員、浜尾委員欠席）
鳥取県：水産振興局 鈴木局長
事務局：氏事務局長（県漁業調整課長併任）
清家次長（県漁業調整課課長補佐併任）
太田書記（県漁業調整課課長補佐併任）
本田係長（県漁業調整課係長併任）
有田書記（県漁業調整課主事併任）

4 傍聴者 0名

5 議事

- (1) 新規の許可等に係る知事許可漁業の制限措置等について（諮問）
- (2) 全国海区漁業調整委員会連合会日本海ブロック会議提出資料について（協議）
- (3) その他

<議事経過及び結果について>

事務局長による開会の宣言、会長による挨拶の後、会長が議事録署名人として、佐々木委員及び永田委員を指名した。

議事1 新規の許可等に係る知事許可漁業の制限措置等について（諮問）

【原案に同意する旨決議された。】

有田主事が資料1に沿って説明した。

〔板倉会長〕

どうもありがとうございました。先ほどの御説明で、何か御質問とかありますでしょうか。いいでしょうか。

〔各委員〕

はい。

〔板倉会長〕

はい。それでは、ないようでしたら、諮問ということですので、事務局のほうは、その手続、よろしくをお願いします。

議事 2 全国海区漁業調整委員会連合会日本海ブロック会議提出資料について（協議）

〔原案に同意する旨決議された。〕

有田主事が資料 2 に沿って説明した。

〔板倉会長〕

どうもありがとうございました。皆さんのほうで、何か総括的でもいいですし、御意見ありませんでしょうか。

先に、1 つずつちょっと聞きます。太平洋クロマグロの資源管理についてということについては、皆さんのほうで、何か要望とか、今年は、何か枠が増えとるそうですので、多少なりとも増えてくるとは思うんですけども、どんなものでしょう。

〔清家課長補佐〕

はい。補足的なことで、クロマグロの今の現状について御説明をしたいと思います。全国的な話をさせていただきますと、やっぱり資源が回復してる傾向が顕著に表れてまして、各都道府県とも、クロマグロは譲ってほしいという要望が多くなっているというのは、実情にございます。そんな中で、本県のほうでも、やはり今年の 6 月に、定置網のほうで、まとまった、この小型魚は入網をしております。数量といたしまして、約 2. 3 トン、小型魚が定置網のほうでは、1 か月全体的に入りました。

それで、漁獲枠なんですけれども、特に小型魚なんですけれども、一番最初は 4. 9 トン、当初枠としてもらいまして、その後、0. 8 トンまで追加枠というのをもらっております。5. 7 トンで運用していたわけなんですけど、6 月に、先ほど申し上げましたように、定置網のほうに、かなり入ったということで、漁業者のほうから、大型魚を出してでもいいから、小型魚を譲っていただきたい、枠を譲っていただきたいということがありまして、大型魚の漁獲枠を譲って、小型魚の枠をもらうってことを行っております。

なお、大型魚については、当初 6. 1 トンの漁獲枠で、1. 2 トン追加枠をもらっております。合計 7. 3 トンで運用していたわけなんですけど、その後、そういった漁業者からの、小型魚のほうに融通をしてほしいという話がありまして、3 トン分出してありまして、一応現在は、4. 3 トンという形で運用を行っているというところでございます。

昨年度については、当初 10 トン、そのまま下さいというような要望を出しまして、国の許可漁業のほうから、そのまま譲っていただくことができたんですけども、やはり資源回復が顕著であるというところから、なかなか、ただでというわけではないんですけども、無条件で譲ってもらうという形にはならなかったということで、こういった大型魚から小型魚への融通という形で、操作を行いながら、枠の確保を行っているところでございます。以上です。

〔板倉会長〕

どうもありがとうございました。皆さんのほうで、何か御質問等がありますか。

〔山根委員〕

今年は枠が増えているっていうけど、どれくらい増えてるの。

〔清家課長補佐〕

はい。追加枠といたしまして、小型魚が0.8トン、大型魚が1.2トンしか、実は追加配分というのはなかったというような形です。

〔山根委員〕

4.9に、0.8っていうことか。

〔清家課長補佐〕

そうです。5.7トンで運用していたと。

〔山根委員〕

分かった。さっき話したね。

〔清家課長補佐〕

はい、そうです。

〔本田係長〕

そこから、あれですね、先ほどの大型魚3トンの分が、丸々小型魚に3トン加わる。

〔山根委員〕

その意味が分からん。小型魚が、なら8トン。

〔清家課長補佐〕

小型魚が、今現在8.7トン。

〔山根委員〕

ああ、小型魚の回復ができとるっていうことか。

〔清家課長補佐〕

そうです。大型魚については、追加配分が1.2トンで、7.3トンだったんですけれども、小型魚のほうに渡したということで、現在4.3トン。

〔山根委員〕

ああ、3トンね。

〔清家課長補佐〕

はい。3トン分だけ、大型魚から小型魚に移したという枠を行っております。すみません。きちっとした資料を作らなくて、口頭で説明して、申し訳ありませんでした。

〔板倉会長〕

はい。そのほかないでしょうか。

〔氏課長〕

はい。すみません。事務局のほうからなんですけども、底びきの死んだマグロの件なんですけど、一応要望として、今回も上げさせてはいるんですけど、今年どういった状況だったかって分かりますかね。

〔板倉会長〕

今年は、あまり上がってこなかったです、入ったどうのこうのということは。だから、その一昨年ぐらいで。去年はたまに入ったかもしれないんですけど、ほとんど報告がないぐらいですので、大丈夫だったと思いますけど。

〔氏課長〕

分かりました。ありがとうございます。やっぱり昨年、うちのほうで、一応調査とかして、清掃を兼ねた調査だったんですけども、その辺で、結構いろいろなところに話が出ていったんで、原因者の方も、遠慮されてるっていう感じなんじゃないかな。

〔板倉会長〕

よほど困ったら、組合にでも、文句を言いながら来るとは思うんですけど、そういうことがなかったということは、多少のことは、もう自分たちで処理できたということですから、その程度だと思います。

〔氏課長〕

分かりました。ありがとうございます。

〔板倉会長〕

そのほか、クロマグロの管理は大丈夫でしょうか。

〔本田係長〕

事務局のほうから、1点いいですか。

[板倉会長]

はい。

[本田係長]

先ほど、清家補佐のほうから、鳥取県の令和6管理年度のマグロの漁獲枠全体の話っていうのはさせていただいたんですけども、今年、途中の委員会のほうでも報告をさせていただいたように、あと、ニュース等にもなっていたように、国際的な管理の中で、日本の漁獲枠全体っていうのも、一応増えたっていうような状況にはありまして、要望内容としては、一応、今回事務局案としては、昨年同様の書きぶりにはしているんですけども、留保枠の円滑な有効活用ですとか、沿岸漁業への配分に配慮することっていうことには主眼を置きながら、要望はしつつも、今も、やっぱり定置網でたくさん獲られると、操業停止になったりっていうような状況等もありますし、やっぱり、もう少し、沿岸のほうに、沿岸は漁獲の変動も大きいっていうのもありますので、それに対応したようなところを強調したような内容にしてもいいのかなっていうような気持ちも、少し持っていたところです。

あと、浜のほうから、少し新規の漁業者ですね、今は承認枠が決まっているので、ちょっとなかなか難しい、どういった運用ができるのかっていうのは、難しいところはあるんですけども、その承認枠の件等についても、御意見等あるのかなというふうなところも思っていたんですけども、もしあれば、そういったことも入れてもいいのかなというふうには思うんですが、いかがでしょうか。

[灘本委員]

新規は一本釣りかなんかですか。

[本田係長]

一本釣りとかですね、今、くろまぐろ漁業の承認者っていうのが、一番最初に承認が決まることに。

[灘本委員]

何かやってみようかなっていう人の声はちょくちょく聞くんですけどね。

[本田係長]

なかなかすぐに、ルールが変わるとは思わないんですけども。

[灘本委員]

今、私たちがもらってるこの承認証があれば、一本釣りはできるんですか。

〔清家課長補佐〕

できます。

〔灘本委員〕

あれをもらってる人はできる。

〔清家課長補佐〕

できます。それ以外の方はできないです。

〔太田課長補佐〕

人が固定されてるので、許可をもらってない人は、獲りたいと言っても、獲らせてもらえない状態なので。

〔板倉会長〕

その辺もね、その多少なりとも、もうちょっと増やすというですか、増やせるような対策があれば、せっかくマグロも動いとることですし。今までの人は、減っても増えているようなことはないし。

〔灘本委員〕

何か試験的に、ほかに漁がないから、やってみようかなって、新規の若い人とかがね、結構、声は聞くんですけどね。また、やり方も分からんし。

〔板倉会長〕

何とか要件つけてね、1人でもされるように。

〔灘本委員〕

うん。せっかくね、いる魚だから、どうにか獲ることができれば、もうけになるんだろうなどは思うんですけども。

〔板倉会長〕

その辺、ちょっと県のほうでも、考えてみてあげてください。

〔清家課長補佐〕

はい。今、新聞報道でされてるように、日本全体の漁獲枠が、小型魚で10%、大型魚で50%増えたと、来年度以降の新年度として、管理として、それで運用していくという方向性というかですね、正式には、国際的な委員会で、12月に承認されて決まるわけなんですけども、そうい

った流れで、一応、次年度以降のこの漁獲枠の配分とか、今の承認漁業者の対応、これらについては、国も含めて、今協議をしている段階であります。なので、また情報が入り次第、報告させていただきたいと、そのように思っております。

〔板倉会長〕

どうもありがとうございました。

〔本田係長〕

会長、じゃあ、ちょっといいですか。

〔板倉会長〕

はい。

〔本田係長〕

一応、11月に、この日本海ブロック会議に提案をするっていうことで、このときのタイミングでは、まだ、令和7管理年度の漁獲枠は決まってない状態です。ですけれども、最終的な要望としては、令和7年の夏になるので、令和7年の管理年度に変更を求めるといったような内容にはならないんですけれども、さっきの灘本委員のほうからもお話があったような、新しくやりたいっていう人とかを担保できるようになっていう辺りを、少し要望内容のところ、今あまり入っていないので、全体的な漁獲枠が増加するっていう見込みの中での、円滑な、漁獲停止等がないようなところとかをちょっと強調させていただいて、2番に、定置網の魚具改良のところを書いてるんですけども、全体、大きくなっているので、2番の定置網の魚具改良のところを、少し縮めるような感じで、修正させていただけるっていうことで、会長のほうに、一任していただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

〔板倉会長〕

これに対する要望事項ですので、皆さんの意見も聞いてあげたいとは思いますが、一応、事務局案として、調整されると思いますので、その辺は、こちらに任せていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

〔各委員〕

はい。

〔板倉会長〕

現状より悪くならないように。

〔灘本委員〕

テレビで、大間のをを見ていて、よく似たような機械とかをつけてるから、できないかなあっていう人が、結構おるんよ。

〔板倉会長〕

はい。それでは、日韓暫定水域及び我が国排他的経済水域における漁業秩序の確立についてということで、何か皆さんのほう、どうですか。沿漁の方は、ちょっと関係ないとは思いますが。これは相手があるものですから、なかなか、はい、そうですっていうわけにもいきませんし、常に、一方通行みたいに、同じことばかりしか、歩み寄りがないので、なかなかまとまらないと思います。

ここの3番を削除すると、海底清掃できる十分な予算を確保するっていうことも、要望としてはあるとは思いますが、これ、ちょっと次元が違うかもしれないですね。海区漁業調整委員会が、こういうことをあまり言わないほうがいいかなと思うんです。これは、全底とか、底びき協会なんかで、常に上げてることですので、この場で、そんなに仕切って言わなくてもいいとは思っております。

〔山根委員〕

ちょっと会長に聞きたいんですけど。

〔板倉会長〕

はい。

〔山根委員〕

海底掃除するとき、暫定水域も掃除するのか。

〔板倉会長〕

正直な話ね、線があるでしょう。

〔山根委員〕

海には、線はないんです。

〔板倉会長〕

まあまあ、正直なところ言うと、線はあって、韓国漁船が、その日本の領海に入って、たもだけ、その線の外に入るといって、そういうようなパターンありますよね。まあ、日本も監視船がないときは、多少なりとも線を越えて、そうして、僕たちがセンターの内側になるような格好にはしてると思うんですけど。

〔山根委員〕

いや、暫定水域に入ったらいけないか。

[板倉会長]

入ったらいけないっていうより、あまり掃除したらいけないと思うんです。

[山根委員]

いけないんか。共同の区域でしょ、あそこ、暫定水域っていうのは。違うんか。

[板倉会長]

そうです。

[山根委員]

そうすると、韓国が荒らしてるから、共同の区域を。日本が掃除するのは。

[板倉会長]

暫定水域から内側は、日本の領土という、排他なので、韓国漁船の素早い人は、さっき言ったような格好で、漁具を入れるので。

[山根委員]

日本側にね。

[板倉会長]

うん、日本側に。

[山根委員]

それは、暫定水域は共同の水域だから、別に大盤で入っても、何ら支障はないっていうこと。

[板倉会長]

まあ、そう。

[山根委員]

なあ。理屈から言ったら。

[板倉会長]

けども、向こうの漁具を引っかけるっていうことは、あまりよろしくない、それは。

[山根委員]

ああ、打ってるね。

[板倉会長]

うん。共同のところだから。

[山根委員]

いや、だから、その海底掃除のときに、暫定水域も掃除するんですかっていうことを。

[板倉会長]

暫定水域のほうは、ほとんどしようがないです。結構、監視船もちよろちよろしてるし、だから、線、際ぐらいで。

[山根委員]

でも、別に入ってもいいんでしょ、暫定水域だから。

[板倉会長]

いや、入ったらいけないと思うんですけど。

[山根委員]

事務局、どうかな、あそこは共同区域でしょ、暫定水域。

[板倉会長]

海底清掃の行為自体が、共同区域だから、相手の国の漁具を引っかけてもいいっていうわけでもないんだが。

[山根委員]

いや、それはないけどね、暫定水域っていう場所は、韓国と日本の共同区域っていうことでしょ、あそこ。

[氏課長]

そうですね。どちらが、操業をしてもいいか、悪いかっていうことはないんですけども。

[山根委員]

うん、ないと思う。

[氏課長]

ただ現状として、会長の言われるように、韓国のかご具とかがたくさん入ってるんで。

〔山根委員〕

うん、まあ、それはね。そういったものを、つけたらいけないんですけどね。その沈んでいる、韓国のかごなどを、海底清掃のときに、日本が、今はこうして、今年は漁がなくて、暫定水域のほうにも入ったら、かごで網がちぎれるって言うてるからね。その海底掃除のときに、掃除ができないものかなと思って。

〔氏課長〕

その話ですよ。日韓で協議してるっていうのが、日韓で一緒に海底清掃しましょうと、日本はここをします、韓国はここをしますみたいなのを、調整をしようと思うんですけど、それがなかなか合意に至らないっていうことなんですよ。そうすると、韓国は普通に操業してるわけで、そこを勝手に日本が、じゃあ、うちは今から掃除するからって言って、勝手に漁具を持ち帰るっていうことはできないので。

〔佐々木委員〕

それこそ漁具が打ってあるもんね。

〔氏課長〕

そうですね。その辺の調整が、なかなか難航をしていると。

〔板倉会長〕

大体、よく言えば、日本は、11月から決まってるけど、韓国のほうは多分決まってないよね。

〔山根委員〕

それがあるから、漁具が置きっ放しになってるんだ。

〔氏課長〕

そうです。ずっと置きっ放しになってるんで。

〔佐々木委員〕

前は持って帰ってきてたけど、このくらいのかごを。それで何か払下げしてたでしょ。

〔板倉会長〕

あれは、ばいかごだ。

〔氏課長〕

あれは多分、EEZの中だと思います。

〔灘本委員〕

日本の中のほうにやってるっていいことですか。

〔氏課長〕

そうです。今言っておられた、梵天だけ外出しといて、日本の中にあると思う。

〔板倉会長〕

そこは、300万は厳しいでしょうね。

〔山根委員〕

300はなあ。はい、分かりました。

〔板倉会長〕

はい。次に、北朝鮮ミサイル発射に係る漁船の安全操業の確保についてということは、今のところ大体、説明のあったぐらいしか、これ以上のことは要望したって。

〔灘本委員〕

あんまり意固地になってもね。日本が操業ができないようになるから。

〔山根委員〕

どうしようもないよな。

〔灘本委員〕

どうしようもない。

〔板倉会長〕

黙ってるより、声を上げ続けたいといけませんので、一応、これも要望事項として、上げてもらおうと思っております。皆さんのほうで、何かいい知恵がありましたら、はい。

〔氏課長〕

知恵はないですけど、沿岸の、小底の佐々木さんとか灘本さんとかなんですけど、このミサイルが飛んだときに、無線局のほうからの連絡っていうのは、何かそういったところって聞いておられるんですか。

〔佐々木委員〕

今、新しい無線っていうのは、何か緊急のあれが鳴るようになってるけど、鳴ったことがない

んだよ、沖出ている。

〔灘本委員〕

いや、鳴るかもしれないけど、それが何だかっていう、全然もう分からないです。

〔佐々木委員〕

うん。緊急何とかって言うのがあって、新しい無線。みんな、替えた人は替えたからね、あの高い無線機へね。

〔灘本委員〕

ぴかぴか光って、何かピーピーピー、何か言ってるんだけど、これが何の警報か分からんって言う。その境の海難局を、いつもかけてるわけじゃないから。

〔氏課長〕

ああ、なるほど。

〔灘本委員〕

何も、壊れたのかなと思う。それよりも、絶えずテレビをつけて、臨時ニュースで、ばあつと出て、ああ、今飛んだとかいうのが分かったほうが、リアルタイムに早いです。

〔氏課長〕

了解です。分かりました。

〔佐々木委員〕

何だろうなあ、無線機替えたのに、何でだろうみたいな感じで。

〔灘本委員〕

うん。壊れたんじゃないかって、変な音がして。

〔氏課長〕

文字情報みたいなのが出るようになってないですか。

〔灘本委員〕

いや、出てるだろうけど、ブリッジの中において、それをずっと絶えず見てればいいんだけども、外で操業で仕事してれば、もう全然分かりません。何か変な音がしているぞーって言う。

〔氏課長〕

分かりました。はい。

〔朝日田委員〕

文字放送がありますよって出て、プッシュして、初めてその内容が出る。

〔氏課長〕

ああ、それが出てくるんですか。

〔朝日田委員〕

はい、そうです。文字なので、そこに出てくる。

〔氏課長〕

分かりました。

〔板倉会長〕

それでは、この要望事項については、事務局と私のほうで協議しながら、進めていきたいと思
いますので、それで御了承願いたいと思います。

議事3 その他

〔板倉会長〕

皆さんのほうで、何か。

〔灘本委員〕

ちょっと太田さんに聞くんだけど。

〔太田課長補佐〕

はい。

〔灘本委員〕

まだ山口県のほうにも、エチゼンクラゲがいるの。

〔太田課長補佐〕

エチゼンクラゲ、西のほうは大分減りまして。

〔灘本委員〕

減った。

〔太田課長補佐〕

はい、減りました。なので、収束の方向で、ただ、絶対量がその1,000オーダーとかで、もう、何か定置網に入ってこなくなってしまうほうが。

〔灘本委員〕

ちょっとこの間少なかったかなって思ったんだけど。なら、あっちのほうが減ったんだ。

〔太田課長補佐〕

そうなんですね。あっち側は減ってるので、時期的にも落ちてくる方向なので。

〔灘本委員〕

いやあ、一番よくいたとき、もう12月までいたから。

〔太田課長補佐〕

そうです。2009年のときと2010年のときは、結構。

〔灘本委員〕

うん。前は年越したまでいたのに。

〔太田課長補佐〕

ええ。なんですけど、今回は、一番大きい筋は、日本海沖から真ん中ぐらいで、日本海の真ん中ぐらいを通過して行って、そのままずっともう上が津軽海峡のほうまで。

〔灘本委員〕

何か、沿岸には来ないって言ってて、安心してたら、もう大変なことだったから。

〔太田課長補佐〕

やっぱり、その本当の灘ベリって、その定置とかには、そんなばんばん入ってはないんですけど、水深やっぱり70メートル付近ぐらいのところと、恐らく水深130メートルぐらいの間、この間に、どうも大分たまっているような雰囲気ですね。ここは、要は佐々木さんたちがやるところだと、ちょっと浅い水深になるので、緯度経度で言うと、佐々木さんたちのところは、もう少し水深浅いところが当たってしまいますが、どうもその隠岐海峡ら辺の、あの場所ですね、あそこら辺がもう。

〔灘本委員〕

なら、もうちょっと辛抱してれば、少なくなる。

〔太田課長補佐〕

っていう形ですね。沖底とかのほうも、今ハタハタ獲ってるとこだったら、もう一網に10個とか20個っていう話なので、一応商売はできるような形なので、ちょうど小型底びきのところが、今、クリティカルにくらっていると、正直言うと、そういう感じですね。

〔灘本委員〕

もう、ちょっと見ただけで、10個入ってたよ。今年はね、上から見えないんだよ。全然上から見えないから、網やってる人は大変なことだ。

〔板倉会長〕

水温が高いからです。

〔灘本委員〕

ああ、どうも、水温の関係なのか。

〔板倉会長〕

それで、クラゲも水深がちょっと深くなってるから。

〔灘本委員〕

全然見えなかったもん。全然、上見たって、ないように思うんだけど、底にはすごいいるんだよ。

〔板倉会長〕

一遍、ちょっとしけてくれれば、何とか変わるんだけど。

〔太田課長補佐〕

いや、今年はどっちかっていうと、その水温の具合も、成層が強い傾向が、なぎが強い影響で、上のほうは熱い水があって、下のほうは、まだ冷たいような感じで、こう層が分かれてるんですよ。なので、そのクラゲとしては、下の層に行ったやつは、もう上に上がってこないっていう形になると思うので。

〔灘本委員〕

もう全然、1個も見えんもんね、上から見て。

〔山根委員〕

うん、見えんです。

[本田係長]

いいですか、灘本さんは、刺網で、大分かかって、網が破けるような。

[灘本委員]

うん。もう、今日、やっとサメの被害がなくなって、やれやれと思ってたら、今度はクラゲにやられて。

[本田係長]

今年とか、あまり実は、県庁のほうには、サメの話って聞こえてこなかったんです。

[灘本委員]

いやあ、サメすごかったよ。

[本田係長]

サメすごかったですか。メジロサメ。

[灘本委員]

もう、網全滅して。

[本田係長]

これですよね、あの、顔の細いやつ。

[灘本委員]

うんうん。うちは白フカって言うんだけど、もう人間でも食うような歯してるんだよ。あれの3メートル、去年より、また一回りでかくなってた。

[本田係長]

何かね、みんな、毎年毎年大きくなってから、育ってるんじゃないかみたいなことは言っとられますけど。

[灘本委員]

うん。じゃないかと思うけどね。あれが盆頃までいて、何かいなくなって、ああ、やれやれと思ったら、今度は、今はエチゼンクラゲが。

[本田係長]

今ね、太田が、70～130メートルとか言ってたんですけど、水深帯って、どんな。

〔灘本委員〕

いやあ、うちらが60メートル、60、50ぐらいのところに結構いて、沖は駄目だわと思って、定置入ってないって言うから、前のほうでやってたら、二日三日したら、定置も山ほど入ってる。

〔本田係長〕

ああ、定置も入ってましたね。

〔灘本委員〕

入った。一回入って。今、うちのところは、もうこの間の台風から上げてるので、網を。そうしたら、淀江はまだ10個ぐらいは入るような。

〔太田課長補佐〕

多分、沖からの流れが1回あったと思います。ちょっと泊で、シイラがばかみたいに入りましたよね。

〔朝日田委員〕

一昨日ね、一昨日。

〔灘本委員〕

一回、北からの潮がものすごい早かったけど、それに乗って入ってきたんかな。

〔太田課長補佐〕

そうです。今年、その東西のより、この南北の潮が、急に行ったときがあったので、あれの影響かなと。要は、供給ではなくて、たまったところから、時々たまったところから。

〔灘本委員〕

あっちから来たのじゃなく、そこらに前からいたのが。

〔太田課長補佐〕

ですね、そうしてって感じなのかな。なので、有限なのは有限だとは思いますが、いるのはいるっていうところです。

〔板倉会長〕

まだ港から見えないからなあ。

〔佐々木委員〕

あれ、夜は電気に浮いてくるのか。いか釣りのほうは、よく見えるって言うけど。

[太田課長補佐]

やっぱり、夜と昼とで、移動しますね。暗いときになってくると、上のほうに上がってきて、日中とかは下のほうに。

[灘本委員]

大分固くなったから、もう網も破れる。

[太田課長補佐]

硬くなったというのは、もう死んでたり。

[灘本委員]

もうはじける前だとは思うんですけど。

[太田課長補佐]

ただ、この触手もたれてくると、軽くなりますから。

[灘本委員]

いやあ、もう、クラゲの世話は、とてもできない。

6 その他

[板倉会長]

その他のほうで、事務局のほうでありますか。

[本田書記]

すみません。事務局のほうからなんですけれども、よろしいでしょうか。今回、9月にありがとうございました。また、例年の議題にはなるんですけれども、県外のいか釣り漁業者に対する許可の取扱方針について、これから、来年の1月1日からの許可になりますので、そのための取扱方針の協議を、来月行わせていただければと思いますので、来月の中・下旬頃を予定したいと思いますので、今回の委員会が終わって、すぐにはなりますけれども、来週、再来週ぐらいに、また日程調整のほうをさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

その10月の委員会の際に、以前にもお話しさせていただきました、刑法の改正に伴います規則改正のほうも、準備ができていましたら、このときに諮問を予定しております。もし難しい場合は、その後を予定しています。今年度ですけれども、3月までの間に、あとは12月の月上旬頃、マアジとカタクチイワシの漁獲可能量の配分について、それから3月の月上旬頃に、クロマグロとスルメイカの漁獲可能量の配分について、それぞれ議題が予定されると思いますので、引き続き、

ちょっと開催のほう多くなりますけれども、御協力のほうよろしく願いいたします。

〔板倉会長〕

以上でよろしいでしょうか。

〔氏事務局長〕はい。

〔板倉会長〕

それでは、進行を事務局のほうに移したいと思いますので、よろしく願いします。

〔氏事務局長〕

はい。会長、ありがとうございました。

そうしますと、ちょっとまた来月早々にといたしますか、日程調整させていただいて、10月と、それから、あと、10月も含めて3回、委員会のほうがございますので、どうぞよろしく願いします。

〔太田書記〕

すみません。会議終わる前に1件だけ、皆様に御協力いただきましてですが、海区のほうの委員会の募集、今、させていただいております。2期目に当たる方々にも、お声がけをさせていただいております。ありがとうございます。ざっと大方のところから、推薦書等々いただいておりますので、引き続き、お話できてないところ等もあると思いますので、何かしら、こういう興味がある方には、御周知のほうをいただければというふうに思います。以上です。

〔氏事務局長〕

はい。そのほか、皆さんのほうから何かございますでしょうか。

〔各委員〕

なし。

〔氏事務局長〕

そうしますと、本日の委員会のほうを終了したいと思いますので、皆さん、どうもありがとうございました。

この議事録の真実を記するため、議長及び議事録署名人をして署名押印させる。

令和6年9月20日

議長会長

署名委員

署名委員